



四九深瀬, 2022, 撮影: 鈴木省一



守章 展 日高見中瀬  
Akira MORI  
hitakami nakaze

2024年2月17日(土) - 2月28日(水) 休廊日無し

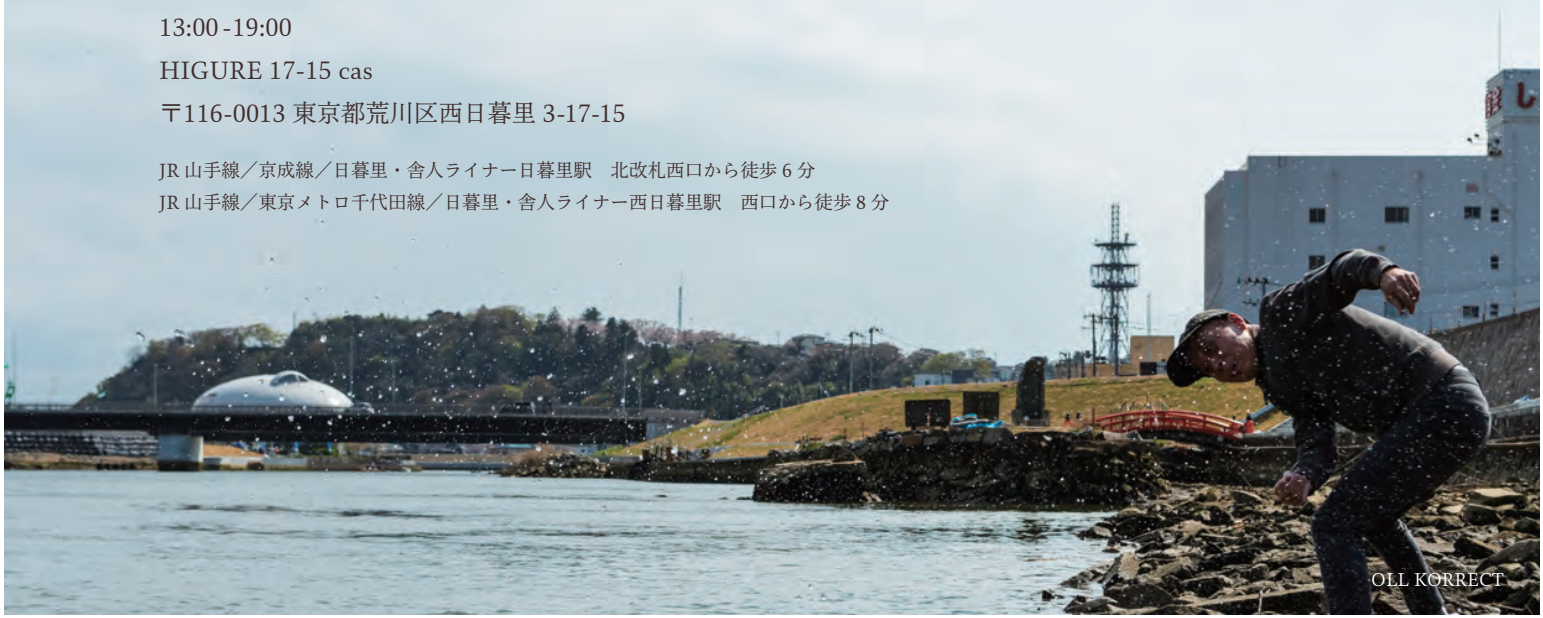
13:00 - 19:00

HIGURE 17-15 cas

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 3-17-15

JR 山手線 / 京成線 / 日暮里・舎人ライナー 日暮里駅 北改札西口から徒歩 6 分

JR 山手線 / 東京メトロ千代田線 / 日暮里・舎人ライナー 西日暮里駅 西口から徒歩 8 分



OLL KORRECT

2021/09/09 ながい路地を過ぎると鬱蒼と生い茂る草むらで腰から下は消えてしまい腰から上はくもの巣だらけになった。向こう側に着いたその河原には成り立ちの異なる東西の山の岩石が合流した川面の上に現れていた。そのあちこちでちぎちぎ置かれた河原から小石を拾い上げ川面の先を探してみる。拾い上げた一四九の漂礫。背負い歩いていると鬱蒼と生い茂る草むらから垣間見える川面の流体が変形を繰り返しながら移動する北上川と豊沢川との間を自由に姿を変え流れにまかせ流れていた。水源の山から長旅を経て流れ着き拾い上げた石は岩で削られ石同士で磨かれ角が取れ丸く平たい形になった。岸边から川面に投げ跳ねる水紋は川底の瀬に広がっていった。2022/04/23 北上川の袖の渡り。みなかみを伝って風は吹いて来た。朝方から静まり返った岸边に身を屈めると、水面を渡ってくる風があった。つめたい。花曇りのそよ風が、身を屈め移り伝わってきた。人影が静かに投げる。写り込む水面が静かに投げる。投げ込む水紋は静かに拡がった。引き返してゆく波のもと、岸边に転ずる小石のざわめきと水没した川底へ沈んでゆく感覚を覚えた。影だ、言葉の影だ。すべて影、影を凝視した先に川底の瀬と広がり。影という影が消え、太陽が頭上に輝くその日、記憶をあたらしい光にみがいておく。それは、白い敷物の中であって河川敷で眠っていた語句が、ぐっと起き上がってくる。そんな思いがするからだ。ことばの詩の柱が、読むものに立ち現われ、そこに正しく直立するからである。

守章 展 日高見中瀬 hitakami nakaze  
2024年2月17日—2月28日

HIGURE 17-15 cas は、2月17日(土)より守章 展 日高見中瀬 hitakami nakazeを開催します。守章は2021年2月末から2023年4月中旬まで制作拠点を東京から仙台市に移しました。その時期に岩手・宮城の両県にまたがり、石巻湾から太平洋に注ぐ北上川流域にまつわる歴史的事象、環境的事象の調査研究及び作品制作に着手しました。

本展では、二つの作品を選遁します。  
北上山地と奥羽山脈という成り立ちの異なる東西の山の岩石が、川で流され合流する河原で多様な石を採取し並べ水切りを試みた作品「一四九漂礫」。北上川の流域に設置されている無人観測所ライブカメラからの画像を情報公開されているホームページから定点撮影を行い継続的に一年を通し記録し編集した作品「気象観測所日高見」。プロジェクト名称の日高見中瀬とは、北上川に由来する日高見と河口にある中州、中瀬の名称を併せた造語です。

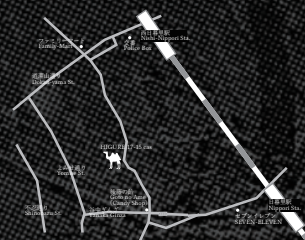
本展出品作品の中には、地質学用語を用い北上川流域を俯瞰した宮沢賢治の詩文を取り上げており、その悠久の時間を辿り想像する多様さをご高覧賜れましたら幸いです。

企画 OLL KORRECT

守章(もり・あきら)

1967年、宮城県石巻市生まれ。1996年、双子の兄弟ユニットとしての活動を開始。現在は弟の喜章が同名で、東京都を拠点に活動。守章は「私」と「他者」を結び、遠ざける各種メディアが生む「距離感」、集団や自治体などの区分けに存在する見えない「境界」を視聴覚化する制作を行っている。近年の展覧会に「MOT サテライト 2017 秋 むすぶ風景」展(清瀬白河周辺/東京都現代美術館主宰・東京)、Path-Artの仲間たち 富田俊明×守章「リップ・ヴァン・ウィンクルからの手紙」展(釧路市立美術館・北海道)、「リボンアート フェスティバル 2019」(石巻市・宮城)、「新・今日の作家展 2019 対話のあとさき」(横浜市民ギャラリー・神奈川)、「横たわる向こう側」(コロキウム・宮城)など。

作家名: 守章  
展覧会名: 守章 展 日高見中瀬 hitakami nakaze  
会期: 2024年2月17日(土)—2月28日(水) 休廊日無し  
時間: 13:00-19:00  
会場: HIGURE 17-15 cas  
住所: 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里3-17-15  
URL: <https://ollkorrekt.dev>



(上)一四九漂礫、2022、撮影: 鈴木省一  
(下)気象観測所日高見、2022

JR 山手線/京成線/日暮里・舎人ライナー日暮里駅北改札西口から徒歩6分  
JR 山手線/東京メトロ千代田線/日暮里・舎人ライナー西日暮里駅 西口から徒歩8分